

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1272100304
法人名	社会福祉法人 康徳会
事業所名	グループホームあかしや
所在地	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-12-1 (電話) 047-475-3030

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成20年12月11日
評価確定日	2月13日

【情報提供票より】(平成20年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年7月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	21 人
利用定員数計	17 人
常勤	11人
非常勤	10人
常勤換算	8.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000 円	その他の経費(月額)	25,000円	
敷金	無し			
保証金の有無(入居一時金含む)	有り 700,000 円	有りの場合償却の有無	有り	
食材料費	朝食	400 円	昼食	850 円
	夕食	650 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津田沼中央総合病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京成実籾駅より徒歩15分の、閑静な住宅街の一角にある3階建ての事業所である。1階は併設のデイサービスで2、3階がグループホームあかしやである。ホームの理念として、「自由でゆったりと家庭的な環境のもとで、その人らしく生きていく」を、職員全員が日々確認しながら支援している。一步ホームに入ると入居者と職員が自然に溶け込んでいて、ゆったりとした家庭的な雰囲気が漂っている。ケアサービスについては、入居者一人ひとりの心身の状態の変化が一目瞭然で分かるように大判のファイルに毎日記録し、理念の実現に向けた支援を行っている。また、災害対策についてはマニュアルを整備し、管理者、職員は講習や訓練を重ねている。医療連携もしっかりと構築されており看取りの実績もある。今後は、地域に密着したグループホームとしての役割発揮が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では事業所独自の理念の掲示が改善課題として上げられていたが、現在はホームのリビング及び事務所に法人の理念と共にホーム独自の理念が掲示され、ミーティング等でも確認しながら理念の実現に向け日々取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が参加し自己評価表に記入したものを管理者がまとめた。サービス評価ガイドブックを参考にする事で、気づきや課題も見出せて、評価の意義の理解にも結びついた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は法人の理事、職員、地区会長、住民等の参加を得て2ヶ月に1回開催され、評価における改善の取り組み状況や施設運営に関する報告と共に、意見、要望、苦情などを話し合っている。理事が社会福祉協議会の評議員でもあり、行政との協力体制も密で、行政のアドバイスや支援を受けながらサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	管理者、第三者委員会が苦情受付窓口になっている。日頃から家族が訪問時に気軽に職員に話せるようにいつも声かけをしている。また個別に面会ノートを作成して何でも記入してもらうようにしている。家族会の開催は検討されているがまだ実現に至っていない。家族同士の集まりの場で意見が出せるような仕組みが必要と思われる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の行事参加やボランティアの受け入れや、地域の学校からの体験学習の受け入れも行っている。また、災害時の協力体制も構築されており、地域との交流は活発である。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	改善項目であった事業所独自の理念として、自由にゆったりと、その人らしく生きていくことの支援に努めることを掲げ、あかしや信条六原則と共に玄関、リビング、事務所に掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に理念を掲示して意識の徹底を図ると共に、ミーティング等においても確認し合いながら、理念に向けた具体的なケアの実践に取り組んでいる。		
理念に向けた					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、カラオケ大会や趣味の教室に参加したり、中華料理店からの出張バイキングやお化粧品ボランティアの受け入れ等、地域との交流は積極的に行っている。また小、中、高校からの体験学習も受け入れている。		
積極					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が外部評価のガイドブック等を参考に、自己評価票を記入する作業の中から気づきや課題を見出すことで、評価の意義の理解に繋がった。また評価結果を踏まえて職員全員で検討し一つずつ改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は理事、職員、家族代表、町内会長、地域住民等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。評価後の改善に向けた取り組み状況や、施設運営、災害対策マニュアル作成や実施訓練の経過報告と共に、事業所への意見、要望、質問等をもらってサービス改善に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の理事が社会福祉協議会の評議委員であることから市との協力体制が構築されている。日頃より情報交換を行い、課題解決やサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回発行されるニュースレターに、担当者が一人ひとりの写真入りで入居者の生活状況や健康状態、職員の異動等を記入し、預かり金管理帳、請求書と共に郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、第三者委員会が苦情窓口になっており、苦情対応研修も受講している。また個別に面会ノートを作成して面会時に意見、要望を汲み上げる取り組みをしている。家族会の開催は検討しているが実現されていない。		家族同士の集まりの場で意見が出せるような仕組みが必要と思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動や多少の離職はあるが、固定の職員との馴染みの関係を保ちながら、入居者へは個々の判断能力に応じた報告をして、ダメージを与えない配慮をしている。新入職員は1ヶ月間リーダー職員と共に業務を行いながら入居者との馴染みの関係を構築している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、新任、現任研修の受講は県の研修計画に沿って受講している。また資格取得の奨励もある。月1回の勉強会では、研修発表や、ヒヤリハット場面の想定によるロールプレイを行うなど、日々の介護支援に活かしている。職員一人ひとりに応じた受講のシステム化ができていない。		人材の育成を図るためには、職員一人ひとりに応じた受講の機会が確保できるよう、システム作りと研修計画の策定が必要と思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加して情報交換等を行っている。今後はネットワーク作りと共に相互交流にも取り組んでいくことが望まれる。		学習会や相互交流を図ることによってサービスの質の向上に繋がることを期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に面談して本人、家族から生活状況やニーズを把握して情報を共有した上で体験入居を行い、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう支援している。また馴染みの家具などの持ち込みによって以前の生活がそのまま引き継がれるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の能力に応じて掃除、物干し、調理等お互いが助け合いながら行っている。言葉遣いや作法等人生の先輩として教わる事の方が多く、職員が元気づけられたりすることもあり、お互いを支え合いながらより良い関係に繋がる支援を心掛けている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は毎日行っているミーティングでの情報を共有しながら入居者の思いや意向の把握を行なっている。困難な場合も職員が感じ取ることの大切さや、入居者本人の視点に立っての見極めを心掛けている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者と家族の要望や考えを聞き取り、その人らしい計画に反映出来るように職員全員で検討しながら計画書の作成をしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>特大の記録用個人ファイルの中に、日々変化する介護記録を収納している。これが介護計画変更の元となっている。ミーティング、職員間の連絡帳、意見ノートにより入居者の最新の状態が共有され、家族の意向も含めた見直しがその都度されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の高齢者の状況に応じて、空きがあればショートステイの受け入れをしている。併設のデイサービスのリハビリスペースや身体状況の低下した入居者の機械浴の利用も可能である。カラオケ教室、書道教室等の付添も柔軟に行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで受診しているかかりつけ医や整形外科を利用している。協力医療機関の医師をかかりつけ医とする入居者は家族の同意を取っている。また、連携病院の主治医により月2回の訪問診療が行われ定期的な検査受診等も助言され、変化の把握が適切にされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで終末を看取った事例がある。終末期までの段階を入居者も含めた全員で共有し、ホームの看護師と医師の連携を通じて混乱なく看取った。看取りや延命治療に関する同意書を独自に作り、すぐ行動が出来るよう備えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前でのあからさまな言葉かけや介護の誘導をしないようミーティングなどで周知徹底をしている。個人情報については、職員全員に誓約書を取り、個人の記録等は書庫に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者の意向に沿ったケアを行うため日課を作っていない。買い物や散歩、植栽、手芸などその日を自由に過ごす事を大切にしている。コミュニティセンターで行われている書道教室、カラオケ教室の参加等、個別性を重視した支援も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを作ることからはじまり、買い物、調理、配膳、後片付けまで職員と入居者が共に行っている。定期的におやつも楽しみながら作られている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を決めず、入居者の習慣や希望を優先して自由に入浴できる配慮がされている。入浴ができない日は清拭や足浴にかえ清潔の保持につとめている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の習慣や希望を大切に、趣味や楽しみ事を思い思いに行える支援をしている。毛糸の編み物や読書、ベランダを利用した園芸など多岐に渡る。ホームでつくった歌詞ノートを全員が持ち、歌うことも楽しみの一つとなっている。体を動かすこととしては、毎朝のリハビリ体操や併設しているデイサービスのスペースを生かしたりハピリも行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って日常の散歩や買い物が行われている。外食会、ドライブ、日帰りの見学会等は定期的に行われ、楽しみの一つとなっている。また近隣で行われているイベントや企画にも目を向け、月に1回は出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことがホームの方針である。職員の適切な見守りや対応により、自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による訓練を年2回行なっている。火災発生時の独自の想定手順書、消防訓練計画書等のマニュアルも作成され、地震火災訓練評価表による自己評価も行われている。運営推進会議の中で地域との協力体制も構築されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設しているデイサービスの管理栄養士と相談しながら、献立を作っている。ミキサー食、刻み食等一人一人の状態や能力に応じた食事が提供されている。水分量は、その日留意する必要がある入居者についてチェック表により管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南面は大きなガラス貼りで採光の良い明るい空間になっている。居間は厨房を中心に家具が配置され家庭的な雰囲気がある。ベランダには入居者の手による季節の鉢植えがありベンチが置かれている。焼き肉パーティ等のイベントも行われ、居心地の良い場所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は掃除が行き届き清潔である。使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれ、居心地の良い空間となっている。		